

市民からの意見の集約結果

障がいのある人もない人も、誰もが安心して安全に、差別・偏見のないまちづくりなどに関して、543人の市民の皆さま方からご意見をいただきました。

この意見は、「障がいのある人もない人も安心して安全に暮らせる別府市条例（仮称）」に盛り込む政策を決定する議論の題材として使用します。

意見を求めた場	時期	人数	件数
別府市障がい者計画策定のための市民アンケート調査	平成22年10月	381	506
条例制定に関する意見募集	平成23年8月～9月	8	22
障がいのある方の自立生活・共生社会の実現に向かう交流会	平成23年8月30日	66	101
第3期別府市障がい福祉計画策定のための市民アンケート調査	平成23年9月～10月	88	123
合 計		543	752

（注記）第3期別府市障がい福祉計画策定のための市民アンケート調査において、「地域での安心した暮らし」と「災害時の安全確保」に関する問題点等を聞いたところ、それぞれ、103人と91人の方からご意見をいただいた。この意見も議論の題材として使用する。

意見の一部

（在宅支援に関すること）

- ・放課後や長期休暇中に利用出来る場所が少なすぎる。介助者の就労の有無に関わらず利用出来る放課後や長期休暇中のサービスがほしい。長期休暇中に2～3回だったり一日4～5時間では全く足りない。作業所やデイサービスも帰宅時間が早く、介助者が就労しようと思っても難しい。日曜日に利用出来る所がほとんどない。（身体障害者手帳及び療育手帳所持者）

（将来不安に関すること）

- ・今はまだ小学生ですが、高校卒業後の生活や親がいなくなったあとの生活を考えると、とても不安です。（療育手帳所持者）

（相談に関すること）

- ・他人に言えない悩みや相談事を話せる場所が充実してほしい。（身体障害者手帳所持者）

（理解に関すること）

- ・内部疾患への理解がない。外観ではわからない事を理解してもらいたい。体調の良い時と悪い時の差が見た目ではわからない事、又そのコントロールが難しい事を理解してほしい。（身体障害者手帳所持者）

（差別・偏見に関すること）

- ・“障がい”という言葉には偏見と差別があり、障がいという言葉をかえて欲しい。特に精神障がい者は、社会的差別を受け、大卒でも容易に就職できない。（精神障害者保健福祉手帳所持者）